

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2011.8.24

No.410



震災後、持ち直しつつある企業活動 (平成 23 年 4～6 月期の県内企業業況調査結果)

調査内容 平成 23 年 4～6 月期の県内企業の業況実績
平成 23 年 7～9 月期の県内企業の業況見通し

調査時期 平成 23 年 7 月上旬

調査対象企業 県内中堅企業 242 社

回答企業 154 社(回収率:63.6%)

}	製造業	31 社	建設業	32 社	卸売業	34 社
	小売業	24 社	運輸業	9 社	サービス業	24 社
	青森地区	58 社	津軽地区	40 社	県南地区	56 社

B.S.Iとは

business survey index の略であり、企業業況判断指標という意味である
指標の求め方は次の通り

B.S.I = 「業況良好企業及びやや良好企業の割合」 - 「業況不振及び
やや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

平成 23 年 1～3 月期の業況実績については東日本大震災の影響から調査を延期
していましたが、本調査と同時に回答をいただきました。

1. 概 況

平成 23 年 4~6 月期の全産業「業況 BSI」は前期(23 年 1~3 月期)比 4.6 ポイント上昇の 23.5 となった。運輸・サービス業で悪化がみられたものの、小売業が大幅に改善したほか、建設業、卸売業も幾分改善がみられた。

一方、全産業「採算 BSI」は前期比 7.9 ポイント低下の 28.3 となった。小売業で好転がみられたものの、運輸・サービス業が大幅に悪化するなど、産業間でバラツキがみられた。

主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「操業度 BSI」ともに大幅に上昇した。水産加工の一部や砕石、生コン、農機具、精密機器などで増産に転じる動きが目立った。

建設業の「受注高 BSI」は、震災からの復旧・復興需要などにより、大幅に上昇した。

「売上高 BSI」は、運輸・サービス業が落ち込んだものの、小売業が大幅に上昇したほか、卸売業も上昇した。「出荷高 BSI」は

窯業・土石、電子部品・デバイス、精密機器などで出荷増加が目立った。

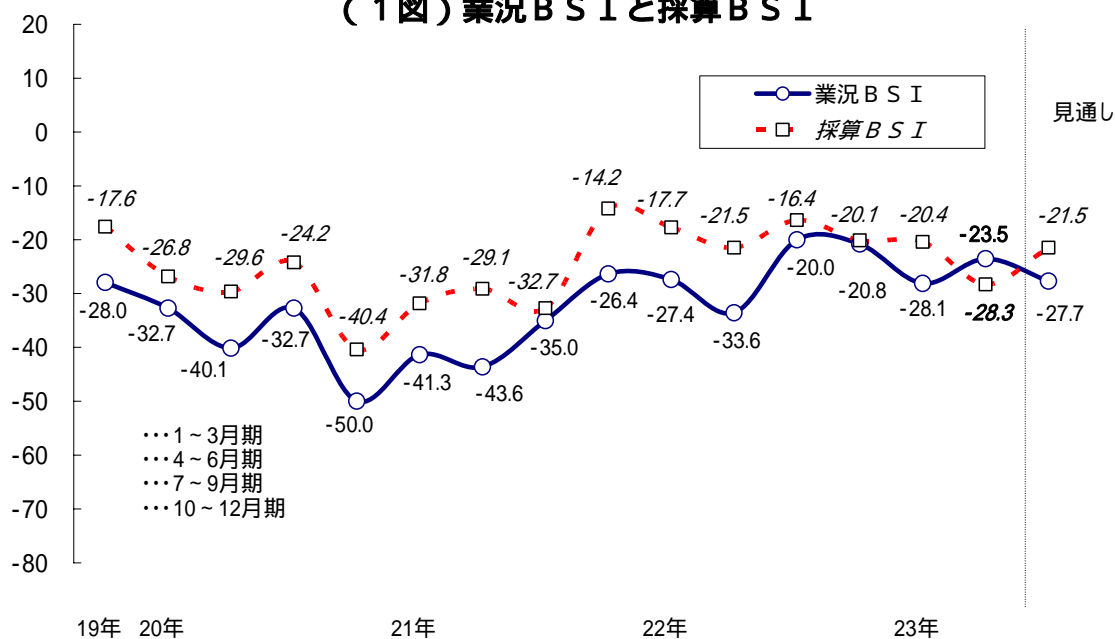
「設備投資 BSI」は、製造業で震災からの復旧・復興関連投資により大幅な伸びがみられたほか、非製造業も幾分上昇した。

当期は「業況 BSI」のほか大半の BSI で上昇がみられ、震災後の企業活動が全体に持ち直しつつあることがうかがわれた。

来期の見通しをみると、全産業ベースでは「業況 BSI」が当期比幾分低下が、「採算 BSI」は幾分上昇が見込まれている。来期の業況は、製造業では当期に比べ改善が見込まれる一方、非製造業は、卸売業、小売業、運輸・サービス業で悪化が見込まれており、建設業はほぼ横バイの見通しとなっている。

(以上、1~12 図、1 表 参照)

(1 図) 業況 B S I と採算 B S I



2. 23年4～6月期の業況

(1) 業況 小売業が大幅に改善、全体では3期ぶりに上昇

23年4～6月期の全産業「業況BSI」は前期比4.6ポイント上昇の23.5となった。

業況判断の内訳をみると、業況好転とした企業の割合は前期比3.9ポイント増加の26.1%、一方、業況悪化とした企業の割合は同0.6ポイント減少の49.7%となった。

産業別の「業況BSI」をみると、製造業は前期比横バイの9.7となった。水産加工の一部や生コン、砕石、精密機械などで業況好転がみられた。一方、食料品の食肉加工、飲料や木材・木製品、パルプ・紙、化学では悪化がみられた。

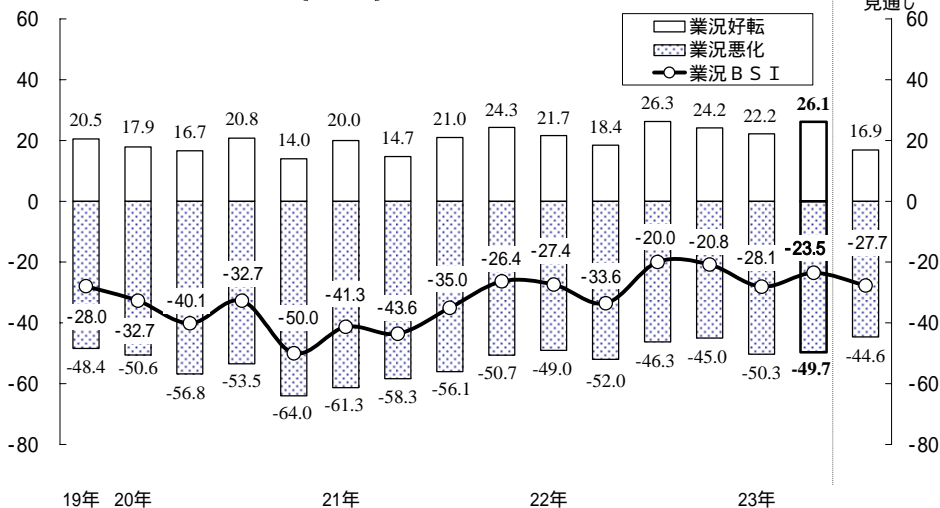
非製造業は、小売業が前期比34.8ポイント上昇の±0.0と大幅に上昇したほか、建設業が同3.1ポイント上昇の50.0、卸売業が同2.9ポイント上昇の11.8となった。一方、運輸・サービス業は同9.1ポイント低下の-39.4となった。小売業は衣料品、乗

用車販売で業況悪化がみられたものの、スーパー、食料品、貨物自動車、燃料、書籍などで好転が目立った。建設業は悪化割合が幾分減少した。卸売業は、建築資材で悪化割合が幾分広がったものの、水産物、青果物などの食料品で業況好転がみられたほか、農機具で好転が目立った。運輸・サービス業は、道路貨物運送、リース、不動産賃貸などで業況好転がみられたものの、震災の影響などから旅客運送、宿泊で悪化割合が広がった、情報処理などでも悪化がみられた。

当期の「業況BSI」は、震災の影響などから運輸・サービス業で業況悪化が目立ったものの、小売業での改善が全体を引き上げたほか、建設業、卸売業でも幾分改善がみられ、3期ぶりに上昇した。

(以上、2図、付表参照)

(2図) 業況BSIの推移



(付表) 産業別業況BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
22年4-6月期	-16.1	-71.0	-37.5	-26.9	-15.6	-33.6
22年7-9月期	-18.9	-25.0	-3.2	-27.6	-25.7	-20.0
22年10-12月期	-3.1	-55.6	12.9	-53.8	-15.2	-20.8
23年1-3月期	-9.7	-53.1	-14.7	-34.8	-30.3	-28.1
23年4-6月期	-9.7	-50.0	-11.8	0.0	-39.4	-23.5
来期見通し	12.9	-50.0	-18.8	-34.8	-50.0	-27.7

(2) 採算の状況

「採算BSI」、3期連続で低下

23年4~6月期の「採算BSI」は前期比7.9ポイント低下の-28.3となった。

採算判断の内訳をみると、採算好転企業の割合は前期比1.3ポイント減少の13.2%、一方、採算悪化企業の割合は同6.5ポイント増加の41.4%となった。

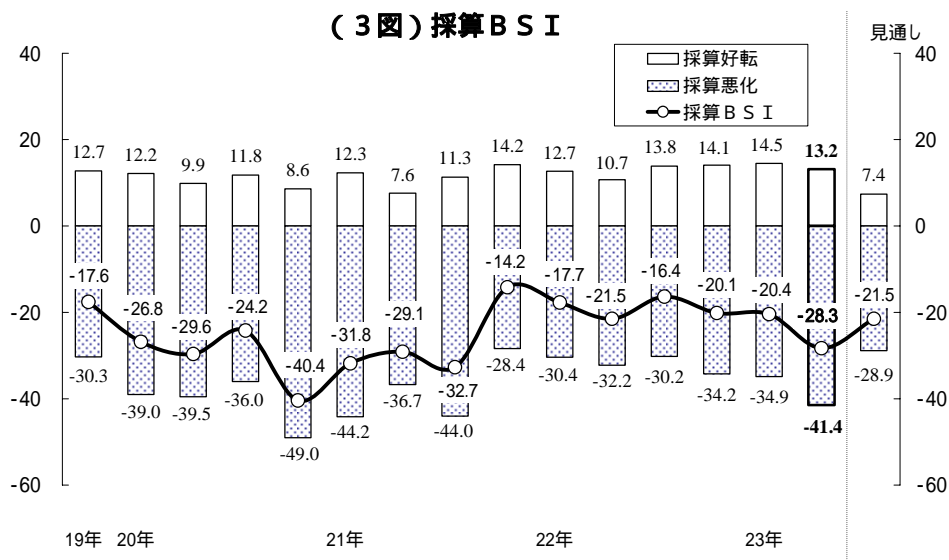
産業別の「採算BSI」をみると、製造業は前期比3.3ポイント低下の-20.0となった。一般機械、精密機械などで好転がみられたものの、飲料、生コンなどが悪化に転じた。また、食料品の水産加工、酒類や木材・木製品は前期から悪化が目立っている。

非製造業は、運輸・サービス業が前期比24.2ポイント低下の-54.5と大幅に落ち込んだほか、卸売業は同11.8ポイント低下の-20.6となった。一方、小売業は同4.2ポイント上昇の±0.0となり、建設業は同横ばいの38.7となった。

運輸・サービス業は震災の影響により、前期の「採算BSI」は道路運送、宿泊で悪化割合が増加し、30.3と落ち込んだ。当期は道路貨物運送で好転がみられたものの、宿泊で悪化割合が広がったほか、警備関連、情報関連などで悪化に転じる動きが目立った。卸売業は農機具、事務機器で好転がみられたものの、建築資材、青果物、紙類などで悪化が目立った。小売業は乗用車販売で悪化が大半を占めたものの、スーパー、燃料で好転が目立った。

当期の「採算BSI」は、小売業で好転がみられたものの、運輸・サービス業では震災の影響により大幅に悪化するなど、産業間でバラツキがみられた。全体では悪化とする割合が7期ぶりに4割を超え、BSIは3期連続で低下した。

(以上、3図、付表 参照)



(付表) 産業別採算BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
22年4-6月期	-3.3	-45.2	-19.4	-19.2	-19.4	-21.5
22年7-9月期	-13.9	-32.1	3.2	-17.2	-22.9	-16.4
22年10-12月期	-3.2	-57.7	3.2	-35.7	-15.2	-20.1
23年1-3月期	-16.7	-38.7	-8.8	-4.2	-30.3	-20.4
23年4-6月期	-20.0	-38.7	-20.6	0.0	-54.5	-28.3
来期見通し	0.0	-38.7	-21.2	0.0	-41.9	-21.5

(3) 生産高・操業度の状況

「生産高BSI」、「操業度BSI」ともに上昇

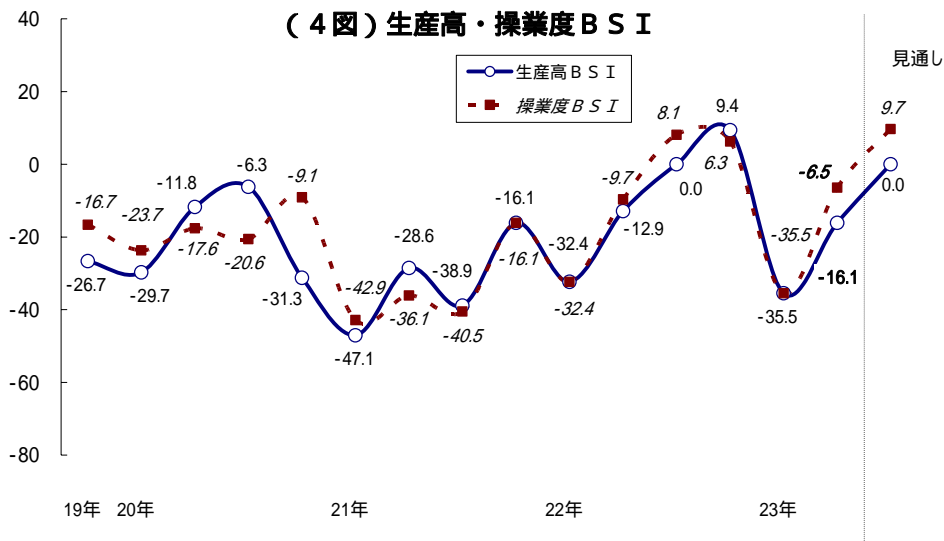
23年4~6月期の「生産高BSI」は前期比19.4ポイント上昇の16.1、「操業度BSI」は同29.0ポイント上昇の6.5と、ともに大幅に上昇した。震災の影響などから前期は生産高・操業度がともに35.5と大幅に落ち込んだものの、当期は回復の動きがうかがわれる。

業種別にみると、酒類、飲料、パルプ・紙などで減産の動きが続いているものの、水産加工の一部や砕石、生コン、農機具、精

密機械で増産に転じる動きがみられた。

なお、来期の見通しは「生産高BSI」が当期比16.1ポイント上昇の±0.0、「操業度BSI」も同16.2ポイント上昇の9.7と、ともに引き続き上昇すると見込まれている。食肉加工などの食料品で増産に転じる動きが見込まれるほか、飲料、パルプ・紙、化学などでは減産とする割合が縮小する見通しとなっている。

(以上、4図 参照)



(4) 受注高の状況

震災からの復旧・復興需要などにより好転

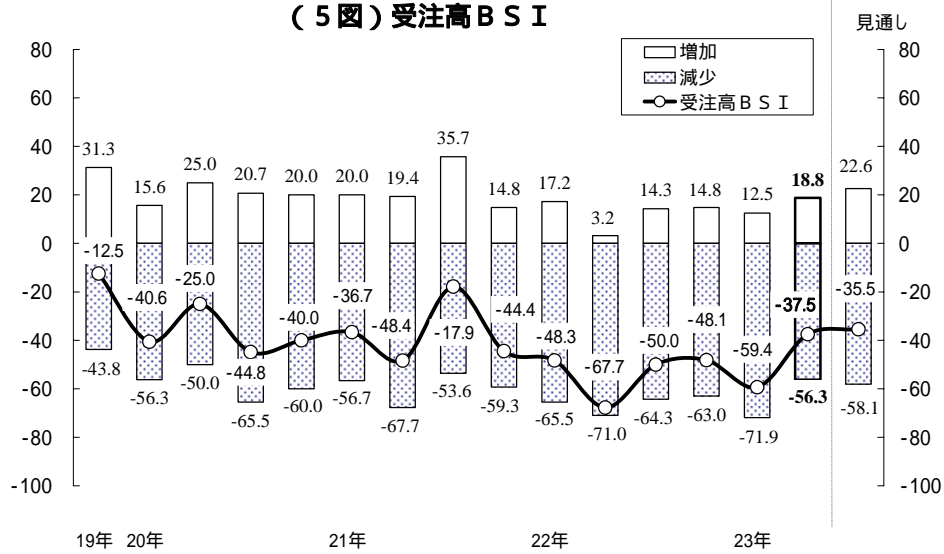
23年4~6月期の建設業の「受注高BSI」は前期比21.9ポイント上昇の37.5と大幅に上昇した。

内訳をみると、受注増加とする企業の割合が前期比6.3ポイント増加の18.8%、一方、受注減少とする企業の割合は同15.6ポイント減少の56.3%となった。前期は受注減少とする割合が71.9%と7割を超え、BSIも59.4と大幅に落ち込んだものの、当期は震災からの復旧・復興需要などにより好転の動きがみられた。

来期は受注増加とする企業が22.6%、受注減少とする企業の割合は58.1%となり、ともに幾分増加する見通しとなっている。この結果、「受注高BSI」は当期比2.0ポイント上昇の35.5と幾分上昇する見通しであり、受注環境は低水準ながら幾分上向きの動きが続くものとみられる。

(以上、5図 参照)

(5図) 受注高BSI



(5) 売上高・出荷高の状況

「売上高BSI」、「出荷高BSI」ともに上昇

23年4~6月期の「売上高BSI」は、前期比8.8ポイント上昇の22.0となった。

産業別の「売上高BSI」をみると、小売業が前期比41.7ポイント上昇の12.5と大幅に上昇したほか、卸売業も同5.9ポイント上昇の8.8となった。一方、運輸・サービス業は同12.1ポイント低下の42.4となった。

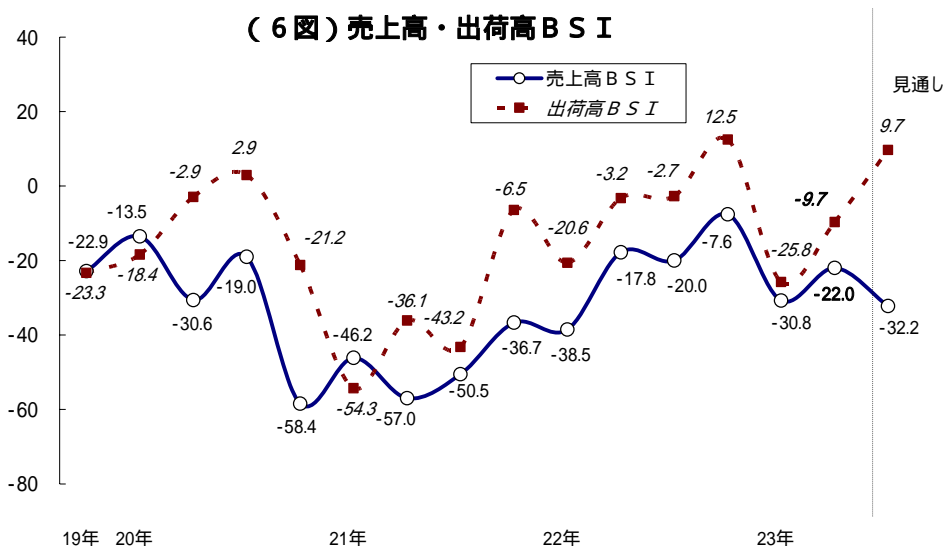
小売業は乗用車販売で売上減少が続いているものの、スーパーの増加基調が続いているほか、食料品、燃料、貨物自動車販売、書籍で増加に転じる動きがみられた。が目立ったほか、燃料、スーパーでも増加がみられた。卸売業は衣料品、建築資材などで減少がみられたものの、農機具、漁具、事務機器などで増加に転じる動きがみられた。運輸・サービス業はリース、不動産賃貸など一部で増加がみられたものの、旅客運送、宿泊、情報関連などで売上減少とする割合が拡大した。

なお、来期の「売上高BSI」は、各産業とも低下が見込まれており、当期比10.2ポイント低下の32.2と再び低下する見通しである。

製造業の23年4~6月期の「出荷高BSI」は前期比16.1ポイント上昇の9.7となった。水産加工、パルプ・紙、化学などで減少がみられたものの、窯業・土石、電子部品・デバイス、精密機器などで増加が目立った。

なお、来期の「出荷高BSI」は、当期比19.4ポイント上昇の9.7と、プラスに転じる見通しである。水産加工、飲料、化学などで出荷減少とする割合が縮小するほか、食肉加工などの食料品で増加に転じると見込まれている。

(以上、6図、付表 参照)



(付表) 売上高・出荷高BSIの推移

	出荷高BSI	売上高BSI			
	製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス	
22年 4 - 6月期	-3.2	-37.5	0.0	-12.5	-17.8
22年 7 - 9月期	-2.7	-22.6	-6.9	-28.6	-20.0
22年10 - 12月期	12.5	16.1	-28.6	-12.1	-7.6
23年 1 - 3月期	-25.8	-14.7	-54.2	-30.3	-30.8
23年 4 - 6月期	-9.7	-8.8	-12.5	-42.4	-22.0
来期見通し	9.7	-17.6	-29.2	-50.0	-32.2

(6) 価格の状況 仕入・販売の価格ギャップが3期連続で拡大

23年4~6月期の「仕入単価BSI」は前期比8.3ポイント上昇の39.7と3期連続で上昇した。

産業別にみると、製造業が前期比16.1ポイント上昇の54.8、非製造業は同5.5ポイント上昇の34.4となった。製造業は、食料品の水産加工、麺類、飲料のほか、パルプ・紙、生コン、鉄鋼、精密機械、造船などで仕入単価上昇が目立った。

非製造業は、卸売業が同20.6ポイント上昇の41.2となった。一方、建設業は同3.1ポイント低下の37.5、小売業は同4.2ポイント低下の20.8となった。卸売業は衣料品、食料品の水産物で仕入単価上昇が目立っ

たほか、建築資材で上昇とする割合が拡大した。建設業は一部で仕入単価低下の動きがみられた。小売業は燃料で上昇とする割合が縮小した。

次に、23年4~6月期の「販売単価BSI」は前期比3.8ポイント上昇の5.9となった。

産業別にみると、製造業が前期比3.2ポイント上昇の6.5、非製造業は同4.1ポイント上昇の5.7となった。製造業は、食料品のパルプ・紙、砕石、精密機械などで販売単価低下がみられるものの、水産加工、木材・木製品、鉄鋼などで上昇の動きがみられた。

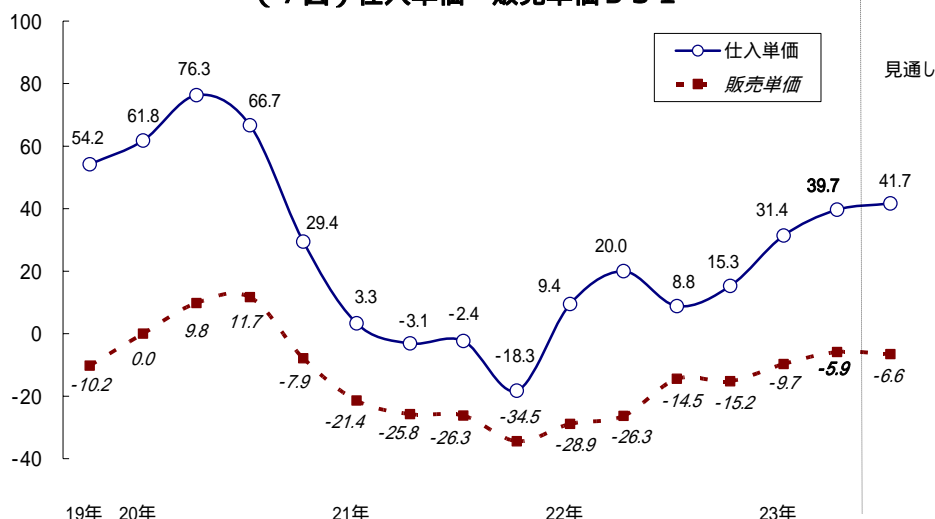
非製造業は、小売業が同 16.6 ポイント上昇の 20.8、卸売業が同 8.8 ポイント上昇の 5.9 とそれぞれ上昇した。一方、運輸・サービス業は同 6.5 ポイント低下の 15.6 となり、建設業は同横バイの 28.1 となった。小売業はスーパー、貨物自動車販売で販売単価上昇がみられたほか、燃料で上昇の動きが目立った。卸売業は事務機器、医薬品などで販売単価低下がみられたものの、建築資材、燃料、食料品の水産物で上昇が目立った。運輸・サービス業は宿泊の一部で販売単価低下が目立ったほか、道路旅客運送、広告などで低下がみられた。

価格面の動きをみると、仕入単価 BSI は製造業、非製造業とも前期から上昇が続いており、当期は製造業で大幅な上昇がみられた。価格ギャップは 3 期連続で拡大しており、仕入単価の上昇を販売単価に十分転嫁できていない状況がうかがわれる。

なお、来期については、「仕入単価 BSI」が当期比 2.0 ポイント上昇の 41.7、一方、「販売単価 BSI」は同 0.7 ポイント低下の 6.6 と見込まれており、仕入価格と販売価格のギャップは当期比幾分拡大すると見込まれている。

(以上、7 図、付表 参照)

(7 図) 仕入単価・販売単価 B S I



(付表) 仕入単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業					非製造業	仕入単価 BSI
		建設業	卸売業	小売業			
22年 4 - 6月期	38.7	19.4	6.3	15.4	13.5	20.0	
22年 7 - 9月期	24.3	0.0	0.0	6.9	2.3	8.8	
22年10 - 12月期	25.0	0.0	19.4	14.3	11.6	15.3	
23年 1 - 3月期	38.7	40.6	20.6	25.0	28.9	31.4	
23年 4 - 6月期	54.8	37.5	41.2	20.8	34.4	39.7	
来期見通し	54.8	35.5	44.1	29.2	37.1	41.7	

(付表) 販売単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業					非製造業	販売単価 BSI
		建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス		
22年 4 - 6月期	-22.6	-51.6	-18.8	-11.5	-25.0	-27.3	-26.3
22年 7 - 9月期	-16.2	-25.0	-6.5	-10.3	-14.7	-13.9	-14.5
22年10 - 12月期	-12.5	-44.4	0.0	-7.1	-15.2	-16.0	-15.2
23年 1 - 3月期	-9.7	-28.1	-2.9	4.2	-9.1	-9.8	-9.7
23年 4 - 6月期	-6.5	-28.1	5.9	20.8	-15.6	-5.7	-5.9
来期見通し	0.0	-29.0	11.8	16.7	-28.1	-8.3	-6.6

(7) 在庫投資・在庫水準の状況

「在庫投資 BSI」、製造業、非製造業ともに上昇

23年4~6月期の「在庫投資 BSI」は、製造業が前期比 12.9 ポイント上昇の ±0.0、非製造業は同 8.6 ポイント上昇の 5.2 とともに再び上昇した。製造業は、水産加工、木材・木製品、パルプ・紙、化学などで在庫手控えの動きがみられたものの、砕石、一般・精密機械のほか、日配品、調味料などの食料で積み増しの動きがみられた。非製造業は、卸売業の水産物、小売業の衣料品、乗用車販売などで手控えの動きがみられたものの、卸売業の建築資材、電気機器、農機具や小売業の貨物自動車販売などで積み増しの動きが目立った。なお、来期の在庫投資 BSI は、製造業が当期比 6.7 ポイント上昇の 6.7 と在庫積み増しが見込まれ、非製造業は同 10.4 ポイント低下の 5.2 と手控えの動きが見込まれている。

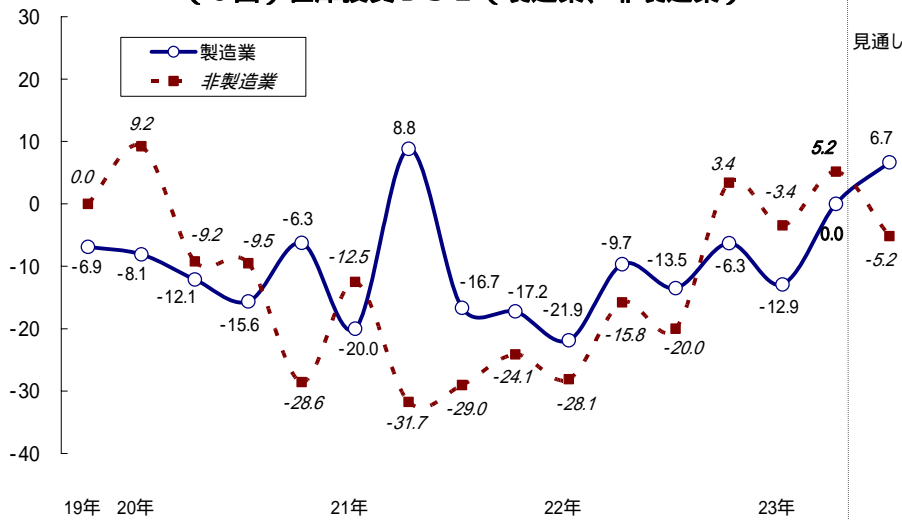
次に在庫水準についてみると、まず製造

業の「原材料在庫水準 BSI」は前期比横バイの 10.0 と不足感が続いている。来期は 3.3 と適正圏内に復するものと見込まれている。

一方、「製品・商品在庫水準 BSI」は、製造業の製品在庫水準 BSI が前期比 3.3 ポイント低下の 3.3、卸・小売業の「商品在庫水準 BSI」は同 1.7 ポイント上昇の 1.7 となり、ほぼ適正圏内での動きとなった。製品は水産加工、パルプ・紙など幾分不足感がうかがわれた。商品は卸売業の青果物や電気機器、農機具などで幾分過剰感がみられたものの、小売業の乗用車販売などでは不足感がみられた。来期は商品が適正圏内と見込まれているが、製品は幾分不足感が増すものとみられる。

(以上、8 図、付表 参照)

(8 図) 在庫投資 B S I (製造業、非製造業)



(付表) 在庫関連 B S I の推移

	在庫投資BSI		原材料在庫水準BSI	製品・商品在庫水準BSI	
	製造業	非製造業	製造業	製造業	卸・小売業
22年 4 - 6月期	-9.7	-15.8	-13.3	6.5	5.2
22年 7 - 9月期	-13.5	-20.0	-8.3	8.3	3.3
22年10 - 12月期	-6.3	3.4	-6.5	15.6	15.3
23年 1 - 3月期	-12.9	-3.4	-10.0	0.0	-3.4
23年 4 - 6月期	0.0	5.2	-10.0	-3.3	-1.7
来期見通し	6.7	-5.2	-3.3	-6.7	0.0

(8) 設備投資の動向

震災からの復旧・復興関連投資で製造業が大幅な伸び

23年4~6月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比29.0ポイント上昇の16.1と大幅に上昇し、非製造業は同4.4ポイント上昇の16.7となった。

製造業は、水産加工、パルプ・紙、化学、一般機械、造船で機械購入・修理など震災からの復旧・復興に伴う投資がみられた。また、鉄鋼で既存設備更新、精密機械で社屋増設、機械購入など、食料品では衛生管理設備、車両購入などの投資がみられた。

非製造業は、小売業で店舗取得、既存設備の改修、情報システムの更新などの投資がみられた。運輸・サービス業では運送業で車輛、荷役機械購入、サービス業で駐車場の土地購入、リース用機器購入、店舗設

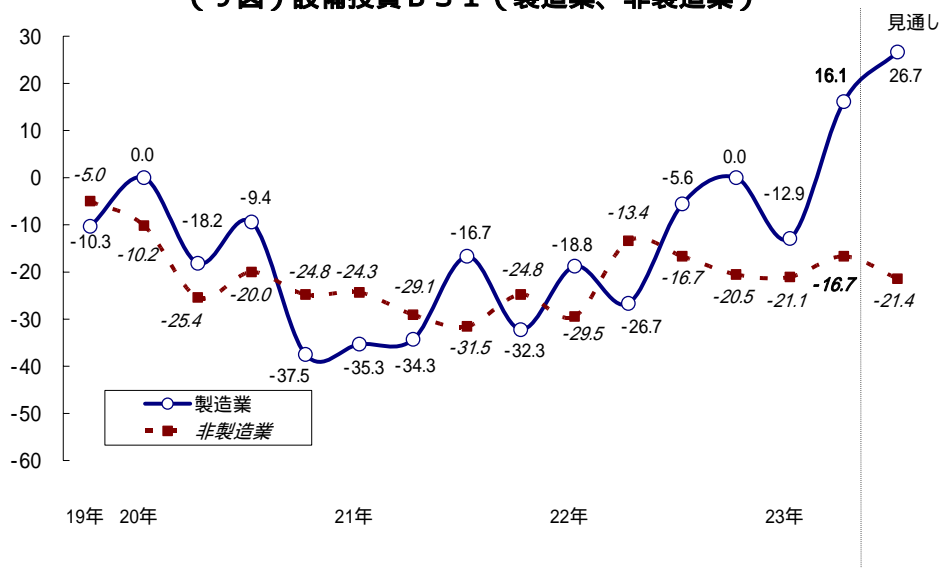
備更新などの投資がみられた。建設業、卸売業の設備投資は前年を下回ったものの、一部で震災関連の車両購入、機械修理などの投資がみられた。

なお、来期の「設備投資BSI」は、製造業が当期比10.6ポイント上昇の26.7とさらに上昇し、非製造業は同4.7ポイント低下の21.4と見込まれている。

県内企業の設備投資は、製造業で震災関連の復旧・復興投資が続く一方で、非製造業は一進一退の動きとなっている。

(以上、9図参照)

(9図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)



(9) 企業金融の動向

「現金・預金BSI」が大幅低下、手元資金が減少

23年4~6月期の企業金融の動向をみると、「現金・預金BSI」が前期比12.2ポイント低下の23.1と大幅に低下した。一方、「借

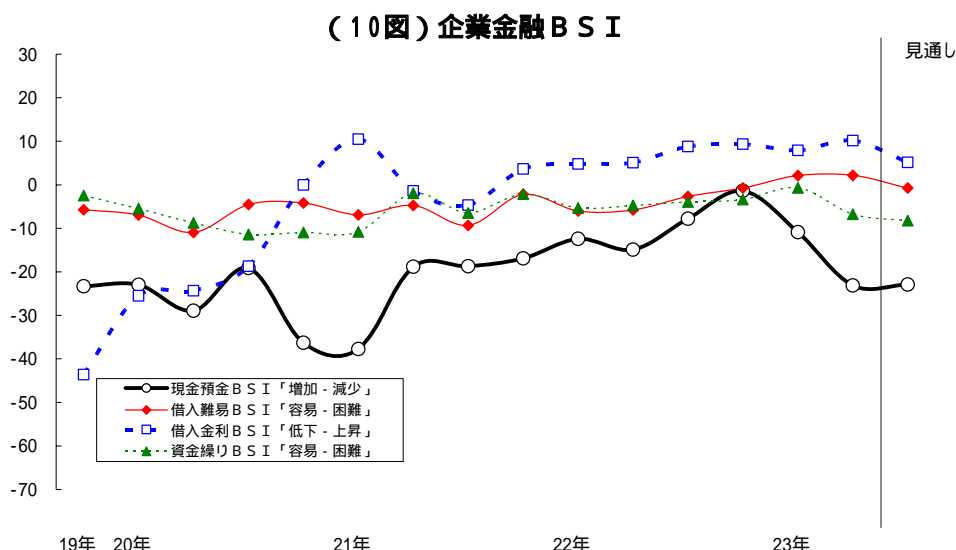
入難易BSI」は同横バイの2.1、「借入金利BSI」は同2.2ポイント上昇の10.1、「資金繰り難易BSI」は同6.1ポイント低下の6.8と

なった。

当期は手元資金の減少が目立っており、資金繰りで窮屈さが増している様子が見られた。借入金利は幾分低下が見られ、借入易度は落ち着いた動きとなった。

なお、来期は手元資金の減少傾向が続くほか、借入金利が上昇し、借入難度、資金繰り面の窮屈さが幾分増すものとみられる。

(以上、10 図、付表 参照)



(付表) 企業金融 B S I の推移

	現金預金BSI (増加 - 減少)	借入難易BSI (容易 - 困難)	借入金利BSI (低下 - 上昇)	資金繰りBSI (容易 - 困難)
22年 4 - 6月期	-14.9	-5.8	5.1	-4.7
22年 7 - 9月期	-7.8	-2.7	8.8	-3.9
22年10 - 12月期	-1.4	-0.7	9.4	-3.4
23年 1 - 3月期	-10.9	2.1	7.9	-0.7
23年 4 - 6月期	-23.1	2.1	10.1	-6.8
来期見通し	-22.9	-0.7	5.1	-8.2

(10) 地区別の状況

県南地区の生産活動、震災以降大幅に落ち込む

23年 4～6 期の「業況 BSI」を地区別にみると、青森地区が前期比 10.4 ポイント上昇の 30.4、県南地区が同 2.9 ポイント上昇の 33.3 となった。一方、津軽地区は同 1.7 ポイント低下の 33.3 となった。

主要 BSI をみると、まず、「生産高 BSI」は、津軽地区が前期比 33.3 ポイント上昇の 16.7、青森地区が同 22.2 ポイント上昇の 11.1、県南地区が同 12.5 ポイント上昇の

31.3 となり、3 地区とも上昇した。

「出荷高 BSI」は、県南地区が前期比 18.8 ポイント上昇の 25.0、津軽地区が同 16.6 ポイント上昇の 16.7、青森地区が同 11.1 ポイント上昇の 22.2 となり、3 地区とも上昇した。

「売上高 BSI」は、青森地区が前期比 21.1 ポイント上昇の 18.4、津軽地区が同 10.3 ポイント上昇の 26.1 となった。一方、

県南地区は同 7.2 ポイント低下の 23.3 となった。

建設業の「受注高 BSI」は、青森地区が前期比 54.5 ポイント上昇の ±0.0、県南地区が同 30.0 ポイント上昇の 50.0 となった。一方、津軽地区は同 18.1 ポイント低下の 63.6 となった。

「採算 BSI」は、津軽地区が前期比 1.0 ポイント上昇の 38.5 と幾分上昇したものの、青森地区は同 14.0 ポイント低下の 19.3、県南地区は同 7.6 ポイント低下の 30.4 となった。

当期の地域別 BSI は、青森地区は業況・売上高・受注高の上昇が、津軽地区では生産・出荷の上昇が目立った。県南地区では 23 年 1~3 月期に業況・生産・出荷が大きく落ち込んでおり、震災の影響が大きかったことがうかがわれた。当期は回復がみられるものの低水準にとどまっている。

なお、来期の「業況 BSI」をみると、青森地区が当期比 3.2 ポイント上昇の 7.1 と、改善が見込まれる一方、津軽地区は同 11.4 ポイント低下の 44.7、県南地区は同 6.6 ポイント低下の 37.0 となる見通しである。主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「出荷高 BSI」は津軽地区、県南地区で大幅に上昇し、青森地区は横バイと見込まれている。「売上高 BSI」は青森地区で上昇が見込まれているものの、津軽地区、県南地区では大幅に低下する見通しとなっている。「受注高 BSI」は青森地区で低下、津軽地区で上昇、県南地区では横バイと見込まれている。「採算 BSI」は 3 地区とも上昇が見込まれている。

(以上、1 表 参照)

(1 表) 地域別 B S I の推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
22年 4 - 6月期	-42.6	-23.8	-32.1	-11.1	50.0	-27.8	-11.1	75.0	-16.7
22年 7 - 9月期	-34.5	-17.4	-8.5	-11.1	11.1	0.0	-11.1	-11.1	5.3
22年10 - 12月期	-22.6	-34.1	-9.1	-11.1	60.0	5.6	-11.1	100.0	0.0
23年 1 - 3月期	-20.7	-31.6	-33.3	-11.1	-50.0	-43.8	11.1	-33.3	-43.8
23年 4 - 6月期	-10.3	-33.3	-30.4	11.1	-16.7	-31.3	22.2	-16.7	-25.0
来期見通し	-7.1	-44.7	-37.0	11.1	0.0	-6.3	22.2	0.0	6.3
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
22年 4 - 6月期	-19.4	-22.2	-11.1	-55.6	-81.8	-63.6	-15.6	-36.8	0.0
22年 7 - 9月期	-23.7	-34.6	-3.2	-50.0	-54.5	-44.4	-21.2	-17.4	-14.6
22年10 - 12月期	-2.6	-40.0	14.3	-28.6	-54.5	-55.6	-2.9	-31.6	18.9
23年 1 - 3月期	-39.5	-36.4	-16.1	-54.5	-45.5	-80.0	5.7	-5.6	-19.4
23年 4 - 6月期	-18.4	-26.1	-23.3	0.0	-63.6	-50.0	20.0	0.0	-11.4
来期見通し	-13.2	-52.2	-41.4	-18.2	-40.0	-50.0	5.7	-15.8	0.0
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
22年 4 - 6月期	-21.2	-15.4	-11.8	-25.0	-16.7	-21.8	5.7	-14.6	-7.4
22年 7 - 9月期	-15.1	-16.7	-10.9	-22.2	-19.6	-8.5	-1.9	-16.3	3.6
22年10 - 12月期	-7.4	-24.3	-19.2	-22.2	-27.5	-12.7	3.7	-12.2	-3.8
23年 1 - 3月期	-14.3	-30.6	-17.0	-5.3	-39.5	-22.8	8.8	-13.9	-1.8
23年 4 - 6月期	-10.7	-25.0	1.9	-19.3	-38.5	-30.4	-1.8	-16.2	-5.6
来期見通し	-20.0	-22.9	5.8	-16.1	-26.3	-23.6	-1.8	-24.3	-3.8

3. 経営上の問題点 (本項では平成 23 年 1-3 月期について省略とする)

「売上・受注不振」がトップ

経営上の問題点については、「売上・受注不振」が 62.5%でトップとなった。以下、「競争の激化」が 59.9%、「収益低下」が 52.6、「仕入単価上昇」が 30.9%、「販売・受注単価低下」が 30.3%などと続いた。当期は「競争の激化」が前回(22 年 10~12 月期)比 10.8 ポイント減少し、6割を下回ったほか、「収益低下」が同 9.9 ポイント増加し 5 割を上回った。

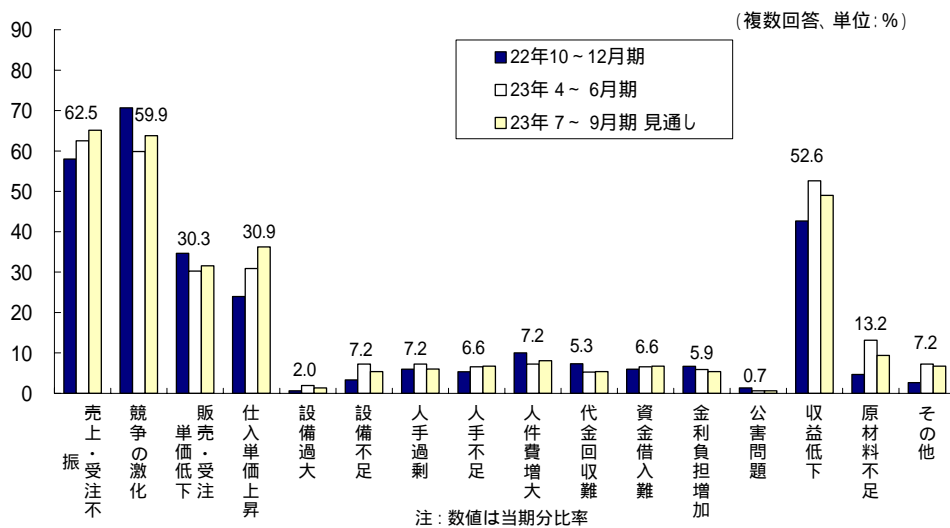
産業別にみると、建設業、運輸・サービス業は「売上・受注不振」がトップとなり、製造業は「売上・受注不振」と「収益低下」が同率

でトップとなった。また、卸売業、小売業は「競争の激化」がトップとなり、産業別にバラツキがみられた。建設業は「売上・受注不振」と「競争激化」が大半を占め、受注環境の厳しさがうかがわれた。製造業は「仕入単価上昇」、「原材料不足」の割合が比較的高く、原材料の確保、仕入コストの増加に苦労している様子うかがわれた。

なお、来期の経営上の問題点については、仕入単価の上昇、販売競争の激化が強まるものと見込まれている。

(以上、11 図,付表 参照)

(11図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売・受注単価低下	仕入単価上昇	人件費増大	代金回収難	金利負担増加	収益低下
22年 4 - 6月期	69.8	67.1	41.6	22.1	8.1	8.1	6.7	45.6
22年 7 - 9月期	61.4	67.7	35.4	20.3	12.7	5.7	5.1	38.6
22年10 - 12月期	58.0	70.7	34.7	24.0	10.0	7.3	6.7	42.7
23年 1 - 3月期	-	-	-	-	-	-	-	-
23年 4 - 6月期	62.5	59.9	30.3	30.9	7.2	5.3	5.9	52.6
来期見通し	65.1	63.8	31.5	36.2	8.1	5.4	5.4	49.0

4. 来期の見通し

来期(23年7~9月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比4.2ポイント低下の27.7となる見込みである。産業別にみると、小売業が同34.8ポイント低下の34.8、運輸・サービス業が同10.6ポイント低下の50.0、卸売業が同7.0ポイント低下の18.8とそれぞれ低下が見込まれており、建設業は同横バイの50.0となる見通しである。一方、製造業は同22.6ポイント上昇の12.9とプラスに転じる見通しである。

次に「採算BSI」をみると、全産業ベースで当期比6.8ポイント上昇の21.5となる見込みである。産業別にみると、製造業が同20.0ポイント上昇の±0.0、運輸・サービス業が同12.6ポイント上昇の41.9とそれぞれ上昇が見込まれている。一方、卸売業は

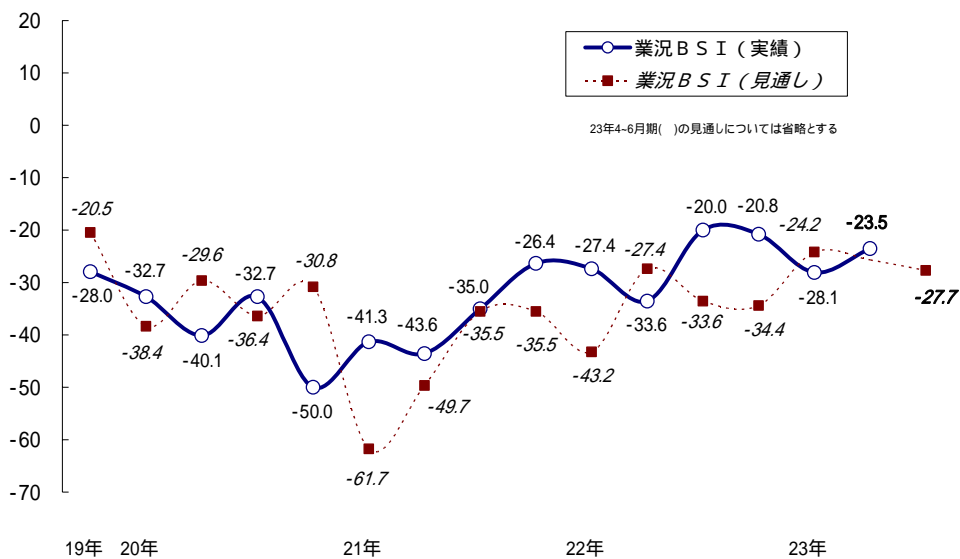
同0.6ポイント低下の21.2と幾分低下が見込まれるほか、建設業が38.7、小売業が±0.0とそれぞれ同横バイとなる見通しである。

その他の主要BSIは、「生産高BSI」、「操業度BSI」、「出荷高BSI」は当期に引き続き大幅に上昇する見通しである。また、「受注高BSI」は幾分の上昇が見込まれる一方、「売上高BSI」は再び低下する見通しとなっている。

来期の業況は、製造業では当期に比べ改善が見込まれる一方、非製造業は、卸売業、小売業、運輸・サービス業で悪化が見込まれており、建設業はほぼ横バイの見通しとなっている。

(以上、1~12図、付表参照)

(12図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	23年4-6月期	-9.7	-50.0	-11.8	0.0	-39.4	-23.5
	来期見通し	12.9	-50.0	-18.8	-34.8	-50.0	-27.7
採算BSI	23年4-6月期	-20.0	-38.7	-20.6	0.0	-54.5	-28.3
	来期見通し	0.0	-38.7	-21.2	0.0	-41.9	-21.5

【本件に関する照会先】 一般財団法人 青森地域社会研究所
担当：野里 TEL 017-777-1511